

# 休業中店主が焼死

東京

「やっつけていけない」絶望か

東京都練馬区のとんかつ店で先月30日深夜に火災があり、店主の男性(54)が亡くなった。新型コロナウイルスの影響で、聖火ランナーに決まっていた東京五輪が延期になり、店も休業を余儀なくされた矢先。ふさぎ込み、先行きに絶望した様子だったという男性の体には、油をかぶったような形跡があったという。

警視庁などによると、火災が起きたのは30日午後10時ごろ。3階建て建物の1階にある店内のごく一部が焼けただけだったが、男性は全身にやけどを負って搬

送され、まもなく死亡が確認された。捜査関係者によると、体から油の反応が確認されたという。

近所の人たちによると、男性は妻の実家の店を引き継いだ3代目。商店街の活動にも熱心に取り組み、様々な企画を考案して地域を盛り上げていた。マラソンが趣味で、毎日のれんを出し続けた店も、大会に出場するときは休んだ。五輪の聖火リレーの走者選ばれた際は「信じられない」と大喜びだったという。しかし、五輪は延期になり、緊急事態宣言が出て店

も先月13日から休業に追い込まれた。男性は同27日、商店街の組合理事長、大野裕之さん(60)のもとを訪れた。営業再開に向け、消毒液を早く手に入れたがっていたという。組合として入手できるのが大型連休明けの見込みだと知り、「それじゃ遅いんです」と切羽詰まった様子だった。「コロナが収束しないと、もうやっていけない……」とこぼした。3日後の火災当日、夕方に大野さんが消毒液を持って店に行くと、「もう店をたたむことにしました」。思い詰めたような表情だったという。

大野さんは「まじめで明るく、地域全体のことを考える人。みんなに慕われていた」と惜しんだ。

(鶴信吾)